

Title	日本トルストイ文献目録(二)
Author(s)	法橋, 和彦
Citation	大阪外国語大学学報. 60 p.85-p.103
Issue Date	1982-10-30
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/80932">https://hdl.handle.net/11094/80932</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

日本トルストイ文献目録(二)

法 橋 和 彦

1912年(明治45年 大正元年)

- (加藤)一夫 「トルストイの歩みし道」 ホトトギス 1月  
アアサア・シイモンズ 「芸術に対するトルストイの態度」 帝国文学 1月  
大貫晶川訳  
八杉貞利 「杜伯の「生ける屍」」 帝国文学 1月  
真彩 「杜伯の『生ける屍』」 帝国文学 1月  
(竹友)藻風 「イエスの教へ」 基督教世界 1月  
松浦 一 『トルストイの芸術観』 弘道館 2月  
徳田秋江訳 「生ひ立ちの記(青年篇)」 国民書院 2月  
(近松)  
三上白夜訳 「アリョーシャ」 新人 3月  
「女七題 名文評釈 野苺のやうな瞳」 新潮 3月  
昇 曙夢訳 「三奇人」 文章世界 5月  
津荷環山訳 「宗教とは如何なるものにして其本源は何処にあるか」 大阪講壇 5・6月  
中沢臨川 「新らしき人」 文章世界 6月  
相馬御風 「偉大なる人格、力ある描写—トルストイの『アンナ・カレニナ』」 新潮 6月  
内田魯庵 「トルストイの話」 東亜之光第7巻第7号 7月  
パウル・ビルコフ 「トルストイ全伝」 内外出版協会 7月  
水島耕一郎訳述  
本間久雄 「芸術上の功利主義」 早稲田文学 7月  
S・K訳 「人間と樹との死」(原題「三つの死」) 早稲田講演 8月  
瀬沼夏葉訳 「生ける屍」 秀才文壇 8月  
ヴィルヘルム・シュテッケル 「詩作と神経病(一. 夢と詩)」 アララギ第5巻第9号記念号付録 9月  
氏家 信抄訳  
中沢臨川 「トルストイ論」 中央公論 9月  
長沢武男訳 「閑人の話」 北方文学 9月  
「宿無し」 雄弁 9月  
砂天郎 「トルストイの会」 読売新聞 10月  
小西増太郎 「下僕の筆頭に表はれたるトルストイ先生」 大阪講壇 10月  
六白星 「読むだもの」 新潮 10月  
「人は何れだけ土地を要するか」 早稲田講演 11月

- 林 久男訳 『闇の力』(泰西戯曲叢書第1篇) 文会堂書店 12月  
 矢口 達訳 『コサック』 新陽堂  
 瀬沼夏葉 「トルストイの戯曲『生ける屍』」 秀才文壇10巻4号

1913年(大正2年)

- 中沢臨川 「トルストイの芸術」 中央公論 1月  
 小西増太郎 「始めて杜翁先生を訪ふ」 芸文 1月  
 柏原佑義 「杜翁の『人生論』を読む」 精神界 1月  
 山路愛山 「露国及びトルストイ伯」 独立評論復刊1号 2月  
 吉村繁俊訳 「闇の力」 早稲田文学 1~3月  
 中沢臨川 「円熟期に於けるトルストイの芸術」 中央公論 2月  
 ル・イブウ 久男訳 「生ける屍」 2月  
 「トルストイ小話」 早稲田講演 2月  
 「トルストイ夫人の手術—サロリアのトルストイ伝の一節」 新潮 2月  
 昇 曙夢 「偶然—トルストイ伯の遺書より—」 新潮 3月  
 中沢臨川 「トルストイ」 読売新聞 3月  
 中沢臨川 『トルストイ』 東亜堂書房 4月  
 黒田 亮訳 『家庭の幸福』 内外出版協会 4月  
 小西増太郎 「没後のトルストイ」 現代 4月  
 荒畑寒村 「トルストイの思想」(詩) 近代思想1巻7号  
 (土岐)哀果訳 「狂人日記」 新公論 4・5月  
 林 久男 「トルストイの文芸観及び其作物」 帝国文学 5月  
 三孝 「トルストイと音楽」 読売新聞 5月  
 トルストイ夫人 「トルストイの予言」 近代思想1巻8号 5月  
 土岐哀果訳 『隠遁』 新陽堂 6月  
 前田太郎訳 『生ける屍』 敬文館 6月  
 堀田熊二訳 「少年の智慧」 6月  
 「トルストイの婦人観」 婦人評論 6月  
 「新刊紹介 土岐哀果訳『隠遁』新陽堂」 近代思想1巻10号 7月  
 雲舟訳 「愛は生命である」 婦人之友 8月  
 林 久男訳 「生ける屍」 モザイク 8月  
 尾瀬哀歌 「海外文壇 杜伯著作の出版者」 新潮 8月  
 近松秋江 「文壇無駄話」 文章世界 8・11月  
 播磨檜吉訳 「トルストイの日記」 新潮 8・11・12月

- 阿部次郎 「トルストイとルソオ」 新文林 9月
- 森 鷗外訳 「出家（パァテル・セルギウス）」 文芸倶楽部 9月
- 加能作次郎訳 『三つの死』『人と土地』『マルチン』『隣人』（海外文芸叢書4篇） 海外文芸社 9月
- 「村の一日」 婦人評論 9月
- 小西増太郎 「予が私淑せる杜翁の面影」 基督教世界 9月
- 尾瀬哀歌 「海外文壇 露西亞だより」 新潮 9月
- 相馬御風 「偉大なる終局—トルストイと『アンナ・カレニナ』」 新潮 10月
- 昇 曙夢 「露西亞文学に現はれたる民族性」 新日本 10月
- 相馬御風 「『アンナ・カレニナ』」 秀才文壇 10月
- 相馬御風 『アンナ・カレニナ』（上・下） 早大出版部 10月
- 「新刊紹介 加能作次郎訳『三つの死』海外文芸社」 生活と芸術1巻2号
- T A 「記憶のために(一)—ホイットマンとトルストイ—」 生活と芸術1巻3号
- 島村抱月 「トルストイの思想と芸術」（『雫』現代小品叢書第6所収） 忠誠堂 11月
- 佐藤春夫 「相馬氏の『アンナ・カレニナ』」 時事新報 11月
- 生田春月 「ドイツ座の『生ける屍』」 モザイク 11月
- 加藤一夫訳 『闇に輝く光』 文明堂 11月
- 昇 曙夢 「『アンナ・カレニナ』論」 早稲田文学 11月
- 小西増太郎訳 『トルストイ宗教小説集』（「名曲クレーツェロワ・ソナタ」「主人と僕」「罪の泉源」） 警醒社書店 12月
- 小西増太郎 「トルストイ先生に随行三時間の汽車旅行」 芸文 12月
- 「近代劇物語（『闇の力』）」 12月
- T A 「記憶のために—ルッソウとトルストイ—」 生活と芸術1巻4号
- 1914年（大正3年）
- 桂井当之助 「人間としてのトルストイ」 1月
- 加藤直士 「『闇に輝く光』を読みて」 新人 1月
- T A 「記憶のために(三)—トルストイからゴルキイへ」 生活と芸術1巻5号 1月
- 「新刊紹介 加藤一夫訳『闇に輝く光』文明堂」 生活と芸術1巻5号 1月
- 播磨檜吉訳 「子見たる父トルストイ」 新潮 1・3・7月
- メレジュコフスキー 「人及芸術家としてのトルストイ並びにドストキエフスキ」 玄黄社 2月
- 森田草平・安倍能成訳
- 安成二郎 「杜翁が夫人に贈りし書翰」 文章世界 2月

- 播磨檀吉訳 「トルストイの日記(四)」 新潮 2月
- 谷岡勝美 「芸術とその背景」 基督教世界 2月
- 内ヶ崎作三郎 『トルストイそっくりの老乞食(白中黄記)』 実業之日本社 2月
- 小宮豊隆 「アンナ・カレニナ論」 三田文学 3月
- 内村鑑三 「山上の垂訓について」 聖書の研究164号 3月
- 島村抱月 「復活」 早稲田文学 3月
- 石坂養平 「二つの道—トルストイとドストエフスキ」 帝国文学 4月
- 風江訳 「幼子」 福音新報 4月
- H・H生 「レオ・トルストイの矛盾」 新潮 4月
- 村上静人訳 「復活」 5月
- 『アンナ・カレニナ』に就て」 早稲田文学 6月
- 近松秋江 「肉体の描かれたる芸術」 新潮 6月
- 前田天麿訳 「もとのおこりは」 帝国文学 6月
- 相馬御風 「欧州近代文学思潮」 6月
- 豊島與志雄訳 「アレキシス」 国民文学 7月
- 井口杜村 「社会及び政治改革家としてのトルストイ」 六合雑誌 7月
- 棹歌 「トルストイと自殺」 六合雑誌 7月
- 島村抱月訳編 『戦争と平和』(西洋大著物語叢書(二)) 7月
- 馬場孤蝶訳 『戦争と平和(第一巻)』(菊版厚冊4巻) 7月
- イリア・トルストイ 『子見たる父トルストイ——わが思い出——』 新潮社 7月
- 播磨檀吉訳
- 小野秀雄 「ヤスナヤ・ポリヤナ」 帝国文学 8月
- ベーリング 「ロシヤの旅の挿話」 8月
- 早稲田文学 8月 「モスクワの芸術座」, 秋香小史訳「フェジャ(生ける屍)」, KK生「カチュシャ」, 小島春潮「カチュシャ」
- 「不徹底の徹底, 芸術座の発展」 新潮 9月
- 「文壇新潮 カチューシャの歌, トルストイ研究の鍵」 新潮 9月
- 谷岡勝美 「父トルストイを読む」 基督教世界 9月
- 「死」(「イワン・イリイチの死」の一部) 東壁 9月
- 生田長江訳 「アンナ・カレニナ」 9月
- 葛西善蔵訳 「トルストイのモウパッサン論」 9月
- 武石一羊 「カチュシャの歌」 9月
- 藤波山人 「不憫なカチュシャ(下)」 9月
- 「近代劇に現はれたる女性(『復活』のカチュシャ)」 9月

- 「新刊紹介 イリア・トルストイ・播磨樫吉訳『子の見たる父トルストイ』新潮社」 生活と芸術 2 卷 1 号 9 月
- 内田魯庵 「トルストイに代って人間の迷妄を慨く（杜翁が若し生きてゐたら）」 中央公論 10 月
- 青頭巾 「二つの典型——『子の見た父トルストイ』を読む——」 新潮 10 月
- 寺田春助訳 「生ける屍」 10 月
- 鴻巣訳 「復活」 10 月
- 徳富蘆花 「トルストイ翁訪問」 ポケット文学 10 月
- 山口 徹訳 「戦争と平和」 10 月
- 山口 徹訳 「生ひ立ちの記」 10 月
- 仲田勝之助訳 「緑の杖—トルストイ伯歿後 4 周年の記念に—（トルストイの遺稿文の解説と翻訳）」 生活と芸術 2 卷 2 ～ 4 号 10～12 月
- 神代飛影訳 「カチュシャ」 10 月
- 林 鷗南訳 『闇の力』 植竹書院 11 月
- S・T・U 「世界的大戦乱とトルストイの予言」 六合雑誌 11 月
- 「ロシヤ文学印象記」（第 7 章トルストイ） 11 月
- 小林愛雄訳 「生ける屍」 11 月
- 森田草平訳 「アンナ・カレニナ」 11 月
- 桃木江太郎訳 「カチュシャ」 11 月
- 池田巍郎訳 「コサック」 11 月
- 坂垣邦器訳 「アンナ・カレニナ」 11 月
- 小宮豊隆訳 「復活」 11 月
- 原島八束訳 「トルストイ談話録—グッセフ—」 新潮 12 月
- 御風訳 「戦争と平和」 12 月
- 阿部次郎 「光の中を歩め」 12 月
- 1915 年（大正 4 年）
- 相馬御風 「トルストイ伯の『戦争と平和』（名著梗概）」 敬文館 1 月
- 「トルストイ伯と其遺訓」 新日本 1 月
- 相馬御風訳 「性慾論」 新潮文庫 1 月
- 六合雑誌ロシヤ文化号 1 月
- 阿部次郎訳 『泥濘』（近代西洋文芸叢書） 博文館 1 月
- 阿部次郎訳 『結婚の幸福』（近代西洋文芸叢書） 博文館 1 月
- 森鷗外訳 「パァテル・セルギウス」（『諸国物語』泰西名著文庫第 8 冊所収） 国民文庫

刊行会 1月

- 阿部次郎訳 「子供たちのための話」 新潮 2月
- 「文壇新潮 予の見たるトルストイの長子(大庭柯公—東京朝日)」 新潮 2月
- 布施訳 「流刑囚の話」 基督教世界 2月
- 秋香小史訳 「カチュシャ」 2月
- 原島八束訳 「トルストイの生活より—グッセフ—」 新潮 2・3・7月
- 小宮豊隆 「『アンナ・カリエニナ』に就て」 三田文学 3月
- 百島 操訳 「霧の村」 文明評論 3月
- 羽田鋭治 「近代文豪の肉体的研究 杜翁の性格と其性慾論」 三田文学 3月
- 御風・泰三訳 『復活』 植竹書店 3月
- 御風 「家庭人としてのトルストイ」 新潮 4月
- 布施訳 「最初の酒づくり, 黄金」 基督教世界 4月
- 昇 曙夢 訳 「戦争と平和(第一)」 新潮社 4月
- 米川正夫 訳
- 三浦関造訳 『人生』(「如何にして福音書を読むべきか又福音書の旨とする処は何であるか」「近世科学」「クロイツェル・ソナタに就て」「宗教と道德」「宗教とは何ぞや且つ其要素は那邊に存するや」「人生」「僧侶に訴ふ」「第一歩」「杜翁書簡」「何故に人は自らを麻痺せしむるか」「百姓ボンダレフ」「無為」「労働と怠惰」 玄黄社 4月
- 昇 曙夢 「『戦争と平和』を論ず」 三田文学 5月
- 「トルストイとドストエフスキー」 独立評論 5月
- 「トルストイの死面」 新潮 5月
- 佐久間政一訳 「生ける屍」(独和対訳) 5月
- 加藤一夫 『トルストイ人道主義』 天弦堂 6月
- グーセフ 「トルストイとの二個年」 藤田文林堂 6月
- 斎木仙醉訳
- 秋葉俊彦訳 「暗の力」 6月
- 相馬御風 「トルストイの観た文学者の生活」 新小説 7月
- クロボトキン 「戦争と平和論」 7月
- 栄一訳
- 茅原華山訳 「新英雄主義(トルストイとカーライルを論ず)」 第三帝国 7月
- 御風訳 『我が懺悔』 7月
- 「新刊紹介 加藤一夫『トルストイの人道主義』天弦堂」 生活と芸術 2巻11

号 7 月

- 料理人ルミャンツェフ 「トルストイの思出」 新潮 8 月  
 播磨櫓吉訳
- 堀内生 「自然と人」 いのち 8 月  
 「悪魔の計略」 福音新報 8 月  
 「新刊紹介 相馬御風訳『我が懺悔』新潮社」 生活と芸術 2 巻12号 8 月
- 加藤一夫 「トルストイの宗教論」 科学と文芸 9 月  
 阿部次郎 「トルストイの手紙より」 新小説 9 月  
 「トルストイのドストエフスキーに就ての手紙（二通—ストラホフに宛てしもの）」 白樺 9 月
- 島田青峰訳 『セヴァストポリ』 国民書院 9 月
- 加藤一夫 「トルストイの宗教及び宗教観」 本然生活 10 月
- 相馬御風 「トルストイの戦争観」 新小説 11 月
- 御風訳 『ナポレオン露国遠征論』（トルストイ） 新潮社 11 月
- 古館清太郎 「生活の凝視—ニーチェとトルストイの比較」 生活と芸術 12 月
- 臨川・長江 「トルストイの人道主義」（『近代思想16講』所収） 12 月
- 相馬種夫 「『我が懺悔』についての雑感」 新潮 12 月  
 「文壇新潮 トルストイの戦争観（相馬御風—新小説）」 新潮 12 月
- 森鷗外訳 『パテル・セルギウス』（泰西名著文庫） 国民文庫刊行会

1916年（大正 5 年）

- ロマン・ローラン 「トルストイ」 ラ・テール 1 月  
 生田長江訳 「トルストイ沙翁を罵る」 雄弁 1 月
- 中島徳行訳 「コーカサスの捕虜」 揺籃 1 月
- 鈴木悦次訳 「少女」（「戦争と平和」の一部） 洪水以後 1 月
- ロマン・ローラン 「トルストイ」 新潮 2 月  
 成瀬正一訳 「エミリアンと太鼓」 大阪毎日新聞 2 月
- 相馬御風 『還元録（8・9）』 春陽堂 2 月  
 「芝居女主人公番附の三役 須磨子のカチュシャ」 女之世界 3 月
- 相馬御風 『トルストイ論文集(一) 芸術論沙翁論』 早大出版部 3 月
- 長瀬光司 「トルストイの諸問題」 科学と文芸 4 月
- 兼多恒三郎訳 「舞踏会の後」 秀才文壇 4 月
- 本間久雄 「トルストイの沙翁論」 早稲田文学 4 月  
 「文壇新潮 写真に写ったトルストイ（広津和郎—第三帝国）」 新潮 4 月



- ロマン・ローラン 『トルストイ』 ラ・テール 4月  
福士幸次郎訳
- 江渡狄嶺 「トルストイズムの神髓」(上・下) 中外日報 4月
- 江渡狄嶺 「フルンシスとトルストイ」(上中下) 中外日報
- ポール・ブルージェ 「トルストイの誤謬」 新潮 5月  
豊島與志雄訳
- グリアースン 「トルストイ論」 新潮 5月  
福永挽歌訳
- 江馬 修訳 「春」 文章倶楽部 5月
- 「トルストイの芸術論・トルストイの『復活』を読みて」 科学と文芸 5月
- 「トルストイに就て」 表現 5月
- 塚本 弘訳 『トルストイ民話集』(「愛あるところに神います」「人はどれ程の地面が入るか」「二人の巡礼」「教子」「馬鹿のイワン」「人は何で生きるか」「麵包の皮」「イリヤスの話」) 洛陽堂 5月
- 「文壇新聞 トルストイと蘇峰(吉井勇一読売新聞) 新潮 5月
- 昇 曙夢 「トルストイに関する著作とロシア語の練習」 新潮 5月
- 徳富蘆花 「トルストイの家、ヴロンカ川の水浴」(『叙景文』所収) 博文堂 5月
- 石田三治 「トルストイの沙翁論を評す」 帝国文学 6月
- 内山賢爾訳 「トルストイの手紙」 創造 6月
- 島村抱月 「カチュシャの話」 婦人公論 6～8月
- 西宮藤朝 「トルストイの論文から」 第三帝国 7月
- 内山賢爾訳 「勤労と怠惰」 科学と文芸 7月
- 「『闇の力』の舞台面」 新潮 7月
- 落合謙次訳 「さそり、卵に似たる穀粒」 7月
- 島村抱月 「『闇の力』に就て」 読売新聞 7月
- 「芸術座の『闇の力』」 読売新聞 7月
- 青々園 「須磨子の『闇の力』」 都新聞 7月
- 伊庭 孝 「『闇の力』を評す」 時事新聞 7月
- 武者小路実篤 「小さき泉(トルストイが死を觀た時)」 7月
- 「トルストイの手記」 科学と文芸 8月
- 「『闇の力』の印象」 文章世界 8月
- 「芸術座の『闇の力』」 早稲田文学 8月
- 「力及び愛の哲学(ニーチェとトルストイ)」 独立評論 8月
- 八杉貞利 「時局と杜翁主義者」 東亜之光 8月

- 森田草平 「『闇の力』」 新小説 8月
- 松居松翁訳 『アンナ・カレニナ』 新潮社 9月
- アルツイパーシェフ 「作者の感想—トルストイ論」 早稲田文学 9月
- 馬場哲哉訳 「芸術座の『アンナ・カレニナ』」 万朝報 9月
- 「新続カチューシャの話」 婦人公論 9月
- 「『アンナカレニナ』劇」 読売新聞 9月26日
- 昇 曙夢 訳 「戦争と平和」 新潮社 9月
- 米川正夫
- 坪田譲治訳 「コルネイヴシリエフ他一篇」 洛陽堂
- トルストイ研究 1号 9月

厨川白村訳「トルストイの日記より」, 阿部次郎「トルストイに関する思出」, 昇曙夢「露西亜文学に於けるトルストイの地位」, 相馬御風「おぼえがき(ロマン・ロランの「トルストイ」を読んだ感想)」, 内田魯庵「トルストイと日本の文壇」, 「余は如何にしてトルストイを知り, 或は之に傾倒するに至りし乎(諸家より得たる回答)」(森田草平「結論よりもプロセス」, 石坂養平「トルストイの不完全性」, 長谷川誠也「メレジュコフスキイの『トルストイ』を読むまで」, 加藤一夫「感想の一つ」, 長與善郎「偉大な力強い恩師の一人」, 本間久男「『芸術とは何ぞや』と『復活』と」, 米川正夫「『生ひ立ちの記』と露語研究の動機」, 久米正雄「芸術家としてのトルストイ」, 小山内薫「『光闇に輝く』を見て」, 安倍能成「『我が宗教』と非戦論」, 江馬修「ファミリアな感じ」, 武者小路実篤「トルストイに傾倒するようになったのは」, パンクラアトフ 播磨樫吉訳「トルストイの墓に詣づるの記」, 前トルストイ家書記グセフ「ヤスナヤ・ポリヤナの追憶」, 広津和郎「芸術家時代と宗教家時代」, 原島八束訳「『トルストイ談話録』より」, 中村吉蔵「『闇の力』と作劇家としてのトルストイ」, I K生「『闇の力』梗概」, 小林愛川「トルストイ雑話」, 「トルストイ年譜」, 「人は何によって生くる乎」, 青年諸家のトルストイに対する感想(1)(北島ひろし「大正5年8月10日の手記より」, 東旅人「トルストイと私」, 山口草二「我観トルストイ」, 榛葉信乃「トルストイの所謂『偽芸術』」, 「編輯者より」, 「トルストイ会々報」

- 大杉 栄 「新しき世界のための新しき芸術」 早稲田文学 10月
- 松居松翁 「アンナ問答」 演芸倶楽部 10月
- 渡辺 清訳 「貧者の樹—トルストイの秘書から」 10月
- トルストイ研究 2号 10月

昇曙夢訳「手紙一つ」, メレジュコフスキイ 中村白葉訳「キリストの日雇人(トルストイの日記に就て)」, 生田長江「トルストイとニイチェ」, 本間久雄「トルストイの芸術観と其批評」, 昇曙夢訳「ボロディノのナポレオン」, 江馬修訳「三つの質問」, 「百姓と

瓜」, パンクラアトフ「杜翁終焉地アスターポーウオを訪ふ記」, イ・イ・オゾリン「トルストイの終焉」, 「病床のトルストイ」, 「トルストイ訪問記」((1)ヘンリィ・ジョージ「美しきヤスナヤ・ポリヤナ」(2)徳富蘆花「初対面」), エドワァド・ガアネット「トルストイの生涯及び作物(1)」, ABC「『アンナ・カレニナ』梗概」, 中村白葉編「トルストイ彙報(1)」, 「ヤスナヤ・ポリヤナの自由大学」, 「トルストイ『福音書』に加へられた迫害」, 「人は何によって生くる乎(承前)」, 「青年諸家のトルストイに対する感想(2)」(灰田虐風「闇に耀く人」, 佐藤静夫「杜翁雑感」, 小茂田蘆雨「光明ある亦迹」), 「編輯者より」, 「反響」, 「トルストイ会々報」, 「トルストイ研究会」

「ロシア文学の原稿料」 科学と文芸 10月

西村 貞訳 『トルストイ通俗物語集』(「王様と哲学者」「神の審判」「悔改めし罪人」「三人の隠者」「卵ほどの小粒」「二人の兄弟と黄金」) 共立社 10月  
「文壇新潮 トルストイの非戦論(安倍能成一トルストイ研究)」 新潮 10月

パウル・ビルコフ 「トルストイ伝」 早稲田文学 10月~1917年1月  
御風訳

トルストイ研究 3号 11月

「トルストイ談話録より」, 武者小路実篤「トルストイに就いて」, 加藤一夫「トルストイの宗教観」, 石田三治「トルストイと性慾問題」, 福士幸次郎「『イワン・イリイッチの死』と『主人と下男』を民衆芸術と見て」, ドストイエフスキイ 山村暮鳥訳「流刑通信」, 八杉貞利「露西亜国民性と其文明」, 大庭柯公訳「支那人に与ふ」, 播磨権吉訳「トルストイ絶筆二篇一嚴重なる意味に於てのトルストイの絶筆」, 論文一篇と書簡一則一(『實際的方法』『名残の手紙』), 鈴木福治訳「石」, フランシス・グリヤスン「トルストイを論ず」, エドワァド・ガアネット「トルストイの生涯及び作物(2)―ツルゲネエフ―旅行―教育上の経験―」, 中村白葉編「トルストイ彙報(2)」, ABC「『アンナ・カレニナ』梗概(承前)―復讐は我に在, われ必ず之を報む」, 「人は何によって生くる乎(承前)」, 「読者論壇」(加隈傳「トルストイに就いて」, 囚二呻人「研究の門出」), 「編輯者より」, 倫敦杜翁研究会編「トルストイ一日一訓」, 「トルストイ会々報・トルストイ通信研究欄について」

松居松翁 「『アンナ・カレニナ』に就て」 新演芸 11月

石田三治 「トルストイの人生観に於ける一大欠点」 早稲田文学 11月

「芸術座の『アンナ・カレニナ』」 早稲田文学 11月

石田三治 「トルストイ研究の研究」 六合雑誌 11月

江馬 修 「人道主義 諸家幼年少年」 新潮 11月

加藤一夫訳 『我等何を信すべき乎』 洛陽堂 11月

「露西亜の革命と文学」 11月

トルストイ研究 4号 12月

相馬御風「真の生活と動物我（トルストイ『人生論』より）」、広津和郎「トルストイとチェーホフ」、本間久雄「トルストイとツホボル」、竹林熊彦「トルストイの自署」、石田三治「トルストイ対メーテルリンク」、森田草平「トルストイの芸術的方面—其の片鱗に就いて—」、ブランジェ 播磨檜吉訳「杜翁の心友チェルトコフ」、安東禾山「現代社会に及ぼしたる杜翁の影響」、鏈田芳花訳「三人の隠者」、鈴木福治訳「イリヤース」、ユリウスハルト 生田春月訳「トルストイの芸術」、「トルストイとツルゲエネフとの反目（ライブラリィ・ウワークより）」、「人は何によって生きる乎（承前）」、ガアネット「トルストイの生涯と作物(3)—『地主の朝』—『幼年』『少年』『青年』—『雪嵐』『三つの死』其他—『コサククス』—」、「読者論壇」（阿部宿木「トルストイに親しんでから」、小野三好「『イワン・イリイッチの死』を読んで」、野村孤月「杜翁雑感」、豊福一木「『我懺悔』の余白に」）、「編輯者より」、「トルストイ会々報」

- 生田長江 「トルストイと日本の思想界」 新小説 12月
- 堺 枯川 「小説『復活』を評す（及び諸家のトルストイ評）」 新社会（トルストイ論特輯） 12月
- （鏈田）芳花訳 「顚律 殺されんとして」 12月
- 鏈田芳花訳 「愛ある所に」 12月
- 島村抱月 訳 「戦争と平和」 目黒分店 12月
- 鈴木悦次
- 西宮藤朝訳 「トルストイ論文選集」（「愛と暴行」「現代の奴隷制度」「暴行の法則と愛の法則」「労働者に与ふる書」） トルストイ協会 12月
- 相馬御風訳 「トルストイ論文集」(二)（「宗教とは何ぞや」「宗教論」「我が信仰」） 早稲田大学出版部 12月
- 幸徳秋水 「ト翁の非戦論を評す」
- 山川 均 「闘争と人道」
- 山口孤剣 「トルストイ主義者の馬鹿」
- 高畠素之 「トルストイ主義の幽霊」
- 荒畑勝三 「露国の大久保彦左」
- 白柳秀湖 「科学の大泥棒」
- 山川菊栄 「クロポトキンのみたるトルストイ」
- トルストイ叢書 全12巻 新潮社 1916年～1918年

①生田長江訳『我が宗教』9月 ②福士幸次郎訳『イワン・イリイッチの死』（他に「主人と下男」「高架索の捕虜」収録）10月、③江馬修訳『幼年・少年』、④相馬御風訳『ハヂ・ムラート』、⑤中村吉蔵訳『闇の力』（他に「生ける屍」収録）、⑥広津和郎訳『コサ

ック』1917年4月, ⑦江馬修訳『青年』5月, ⑧広津和郎訳『クロイツェル・ソナタ』  
(他に『吹雪』収録)10月, ⑨谷崎精二訳『結婚の幸福』(他に「アルバート」「三つの  
死」収録)11月, ⑩田中純訳『地主の朝』(他に「ポリクウシュカ」収録)1918年2月,  
⑪山内封介訳『贗造手形』(他に「コルネイ・ワシーリエフ」「神父セルギー」収録)4  
月, ⑫島田青峰訳『セヴァストオポリ』12月

1917年(大正6年)

江渡狄嶺 「トルストイを知らざる記」 第三帝国80号 1月  
(幸三郎)

蓼村訳 「悔改めたる罪人の話」 第三帝国 1月  
「トルストイの手蹟」 文章世界 1月

明皎子 「トルストイの低能的思想とドストエフスキーの天才的思想」 婦人文芸 1  
月

「トルストイの声を聞く」 大学評論 1月

「愛は何を強要する乎」 近代思潮 1号

素木シヅ 「カチュシア」 読売新聞 1月

「文壇新潮 ト翁の肉の洞観(森田草平—トルストイ研究)」 新潮 1月

トルストイ研究 2巻1号 1月

相馬御風訳「苦しみ闘ふ事が(「性慾論」より)」, アンドレエ・シュアレス 増田篤夫訳  
「生けるトルストイ」, 武者小路実篤「トルストイの力(手紙)」, 余はトルストイの思想  
の浸潤普及を如何に見る乎(諸家より得たる回答)」(安部磯雄「就中その無抵抗主義」,  
横井時敬「余の喜びざる所」, 宮田脩「自然の道行」, 三並良「意志的理想主義者」, 高木  
壬太郎「模倣者を戒む」, 桑木巖翼「詳細の事情に通ぜず」, 高島米峰「詩も作り田も作  
り」, 田中萃一郎「20年も昔のこと」, 堺利彦「社会主義者のト翁観」, 杉村楚人冠「トル  
ストイが嫌い」, 山室軍兵「基督を知る為に」, Tetuzo Okada「L. T.」, 青柳有美「ショ  
ウペンウエルとトルストイ」, 山内封介「トルストイの草稿」, 新関良三「トルストイの  
文明観」, 加藤朝鳥「杜翁と近代主義」, 永井白虹訳「旅人との対話」, 関口萍訳「田園の  
唄」, 斎木仙酔「トルストイの作品から」, 喜多村進「トルストイと彼の思想の表白」, 石  
田三治「トルストイの神秘主義批判」, ルミヤンツェフ「朝の散歩(トルストイの思ひ  
出)」, 相馬御風訳「何たる力ぞ」, 中村白葉編「トルストイ彙報(4)」, パウル・ビルコフ  
「両文豪の葛藤(ト翁とツルゲエネフ)」, 「ツルゲエネフのトルストイに送れる手紙」  
「読者論壇」(久保田稷「夜の悩み」, 山口生「『トルストイの宗教論』を見て」, 川上清  
吉「石見の海岸より」)「トルストイ通信研究(1)」(「(1)トルストイの書の英独訳」, 「(2)  
トルストイとツルゲエネフ」, 「(3)ブランデスのトルストイ観」, 「(4)簡易聖書について」)

「編輯者より」, 昇曙夢訳「トルストイの日記」, 「トルストイ会々報」

三浦関造 「小学教師としてのトルストイ」 更新文学社 1月

トルストイ研究 2巻2号 2月

「親愛なるソフィイよ(書簡)」, 広津和郎「怒れるトルストイ」, 石田三治「トルストイと神秘主義批判(承前)」, 「レオ・トルストイ伯来朝」, 久保正夫訳「子どもの智慧」, アンドレエ・シュアレス 増田篤夫訳「生けるトルストイ」, 鈴木禎二訳「トルストイ書翰集より」, 相馬御風「『ハヂ・ムラート』の翻訳について」, チェルトコフ 山内封介訳「トルストイの五周年を記念して」, 昇曙夢訳「子供達の為に」, 鈴木福治訳「露西亜政府に対するトルストイの挑戦」, レオ・レオキッチ・トルストイ「現代の露西亜文学に就て」, 加藤朝鳥編「トルストイ辞彙(1)」, 徳富蘇峰「杜翁を訪ふの記」, 内山賢爾「トルストイの倫理観」, 鏑田芳花訳「浮浪人」, 「読者論壇」(渡辺昌和「真実の一路」, 鴨志田黎明「トルストイに至るまで」, 沢山葭水「ト翁の性慾観と自分」) 「雑感」(灰田虐風「性慾の襲撃」, 熊谷鬼堂「強烈なる罪惡観念」, 豊福一木「『三人の隠者』を讀みて」, 藤沢清二「『幼年少年』を讀了して」) 「編輯者より」, 「トルストイ会々報」

石田三治 「トルストイと基督教」 六合雑誌 2月

「愛と暴行」 秀才文壇 2月

六白星 「『ハヂ・ムラート』を讀む」 新潮 2月

秋江 「トルストイ伯を歓迎す」 読売新聞 2月

「トルストイ論」(『露西亜文芸の主潮』所収) 2月

片上 伸 「杜翁記念の夜」 東京朝日新聞 2月

加藤一夫訳 『愛ある所に神あり』(他に「殺人者の悔恨」「三人隠者」「村の三日間」「侵入」収録) 2月

百島 操訳 「二人巡礼」 2月

長崎次郎訳 「人は何れだけの土地が要るか」 2月

昇 曙夢訳 『蠟燭と二老人』(「惡魔に依る者は脆く神に依る者は強し」「女の子は老人より惻巧である」「二老人」「二人の兄弟と黄金」「蠟燭」収録)(トルストイ小説文庫一) 新潮社 2月

トルストイ研究 2巻3号 3月

トルストイ会「リョフ・リウオウキチ・トルストイ伯歓迎の辞」, 「小トルストイの本誌に寄せたる手束」, 昇曙夢「小トルストイ訪問記」, 諸者「小トルストイの印象」, 安部磯雄「トルストイの無抵抗主義」, 益田國基「戯曲家としてのトルストイ」, 鈴木福治訳「悔い改めた罪人」, 広津和郎「怒れるトルストイ(承前)」, イリヤ・トルストイ「死の恐怖」, 近松秋江「トルストイの官能上の着眼点」, イリヤ・トルストイ「ヤスナヤ・ポリヤナの近況」, 荒津浦人訳「唯理性に依ってのみ(ある質問者への返信)」, 加藤朝鳥編「ト

ルストイ辞彙(2)」、ワシリイ・モローゾフ 山内封介訳「私の先生—教師としてのトルストイ—」、武田義彦訳「神は真理を觀たまふ、されど待ちたまふ」、アイルマア・モオド川島見一訳「トルストイと語る」、片上伸「トルストイ記念会の一夜」、「読者論壇」(川上清吉「石見浜田の港より」、灰田虐風「万物は勞苦す」)、『『闇の力』上演中止について—会員名簿作成の為に—』、「編輯者より」、「トルストイ会々報」

- 砥上常雄訳 「三人の隠者」(一般人叢書第3篇) 洛陽堂 3月
- 土肥政勝訳 「侵入」(一般人叢書第4篇) 洛陽堂 3月
- 加藤一夫訳 「村の三日間」(一般人叢書第5篇) 洛陽堂 3月
- 河上 肇 「貧乏物語」 3月
- 石田三治 「トルストイ宗教の特徴」 開拓者 3月
- 槇果 「孤龍」 科学と文芸 3月
- 曙夢 「再びトルストイを訪ふ」 読売新聞 3月
- 「小杜翁と語る」 文章俱樂部 3月
- 「小トルストイが日本に於ける感想、トルストイと大学生の対話」 大学評論 3月
- 福士幸次郎訳 「イワンの馬鹿」 3月
- 「トルストイ美辞名句集」 3月
- 鍵田芳花訳 「熊狩」 秀才文壇 3月
- 「コーネ・ワシリエン」 3月
- パウル・ビルコフ 『トルストイ伝』 新潮社 3月
- 相馬御風訳
- 有島武郎 「流血に塗られたるユニホーム」 大学評論
- 律次郎訳 「トルストイの日記より」 文章世界 4月
- 「小トルストイの印象」 新人 4月
- 山内封介 「杜翁の描写」 文章俱樂部 4月
- 「須磨子の生ひ立ち(復活のこと)」 女之世界 4月
- 久保正夫訳 「人はどれだけの土地を要するか」 4月
- トルストイ研究 2巻4号 4月

グセフ「飲酒、老年、努力—、グセフの『トルストイ談話録』より」、久保正夫「トルストイと歴史—(『戦争と平和』の歴史論について)—」、石田三治「クロイツェル・ソナタに就いて」、F生「小トルストイ伯の講演を聞く」、鈴木福治訳「一致—<sup>エヂニエーニエ</sup>レオ・レオキッチ・トルストイの警告とトルストイの精神」、加藤一夫「自然と人道」、益田國基『『闇の力』の研究—戯曲家としてのトルストイ』、加藤朝鳥編「トルストイ辞彙(3)」、ゲオルグ・ブランデス「トルストイ論」、昇曙夢訳「子供達の為に(トルストイの御伽噺)」

鎌田芳花訳「空太鼓」, アイルマア・モオド 川島見一訳「トルストイと語る」, ガアネット「トルストイの生涯と作物(4)」, 播磨権吉訳「杜翁埋骨の地」, 「読者論壇」(川上清吉「謔言だけれど」, 山口林之助「『戦争と平和』を読む」, 小野三好「業火」), 「編輯者より」, 「トルストイ会々報 (小トルストイの講演に就て)」

広津和郎 「ト翁の芸術と思想」 中央文学 5月

加藤一夫 「トルストイは革命運動を如何にみたか」 科学と文芸 5月

トルストイ研究 2巻5号 5月

グセフ「忘却・慈善・芸術 (『トルストイ談話録』より)」, 野上豊一郎「トルストイの実感的表現 (序論)」, 加藤一夫訳「蛇の頭と尾—子供達の為に書ける杜翁の小話—」, 久保正夫「良心の問題—『アンナ・カレニナ』その他に現れたトルストイの人生観について—」, 加藤朝鳥「無限苦痛の杜翁か」, 昇曙夢訳「偶然」, 益田國基「『闇の力』研究 (承前)」, 加藤朝鳥編「トルストイ辞彙(4)」, 松島稔訳「クレザスとソロン」, 浅田清訳「終始一貫せる杜翁」, モローゾフ 山内封介訳「私の先生—小学教師としてのトルストイ— (ヤスナヤ・ポリヤナの農夫)」, ガアネット「トルストイの生涯と作物(5)」, フランシス・グリヤスン 中村詳一訳「権威無き予言者」, S・S生「トルストイ翻訳史一斑(1)」, 鈴木福治訳「死の恐怖 (杜翁の書簡集より)」, 「読者論壇」(安藤兼吉「農園より」, 熊谷鬼堂「感化性強きトルストイ」, 伊藤至郎「キエル・ケゴオルについて」), 「編集輯者より」, 「トルストイ会々報」

片上 伸 「トルストイと革命」 露西亞 5月

長瀬鳳輔 「ロシア革命の話」 婦人公論 5月

石田三治 「杜翁のまわりを廻りつつ」

「スラブ民族とトルストイ」 日本評論 5月

石田三治 「宗教改革者としてのトルストイ」 開拓者

鎌田芳花訳 「人は何によって生くるか」 5月

衛藤利夫訳 「火を等閑にせば燃上らん」(他に「空太鼓」「欲望の念は必要以上に強し」収録)(トルストイ小説文庫4) 新潮社 5月

加藤一夫 「トルストイと革命思想」 Bomaji 5月

阿部勝也訳 「宗教と道徳」 思潮 5月~7月

加藤一夫訳 「少年の為の物理の話」 新国民 5月~7月

「トルストイ青年時代の日記」 中央文学 6月

秋庭俊彦訳 「チェホフの『可愛い女』に就て」 早稲田文学 6月

「肉体の描写」 文章倶楽部 6月

「トルストイに関する平明の真理」 新東洋 6月

小林愛川 「明治大正の文学早わかり」 6月



代永征二郎 「神は真理を知り給へど唯時期を待ち給ふ」 都会及農村 6月

トルストイ研究 2巻6号 6月

グセフ「唯努力に依ってのみ(『トルストイ談話録』より), 阿部次郎「一つの解釈」, 安倍能成「我等何を為すべきか」, 野上豊一郎「実感的表現の価値—トルストイの技巧について—」, 鈴木福治訳「アッシリヤ王アッサルハードン」, 福士幸次郎「トルストイを受け入れる日本人の背景」, 鎌田芳花「『我が懺悔』より『人生論』へ」, 柴田勝衛訳「道德的争闘を記録せるトルストイの青年期の日記」, イリヤ・トルストイ「ヤスナヤ・ポリヤナの村塾」, 加藤朝鳥編「トルストイ辞彙(5)」, 加藤武雄訳「あまり高い! (トルストイ)—モオパサンの小説から」, 堀江朔「『コサック』の主人公によって杜翁の生涯を論ず—友人広津君に送る—」, ガアネット「トルストイの生涯と作物(6)—『我が懺悔』—『我が宗教』—」, ゲオルグ・ブランデス「トルストイ論(承前)」, 金田常三郎訳「舞踏会の後—トルストイ遺稿—」, S S生「トルストイ翻訳史一斑(2)」, 「編輯者より」, 「トルストイ会々報」

本間久雄 「トルストイの沙翁論」(『近代文学の研究』所収) 6月

田山花袋 「私の最初の翻訳」(『東京の三十年』所収) 6月

日原田柴山訳 「復活」 6月

大杉 栄 「近代文学と新犯罪学」 新小説 6月

トルストイ研究 2巻7号 7月

「貞潔について」, 武者小路実篤「トルストイに就ていろいろ」, 石田三治「杜翁の音楽論」, 堀義二「私の作ったトルストイの肖像について」, 加藤朝鳥編「トルストイ辞彙(6)」, 広津和郎「如何なる点から杜翁を見るか」, 浅田清訳「トルストイの死」, 鎌田芳花「トルストイとオスカアワイルド—『我が宗教』と『獄中記』」, ガアネット「トルストイの生涯と作物(7)『我等何をなす可き乎』」, 中目昇議訳「教父」, 安成二郎訳「子供達の為に」, 「読者論壇」(川上清吉「杜伯の社会観に就て生田長江氏に」, 中島四迷「芸術の為に」, 藤沢清二「対照的な論法」, 伊藤至郎「おどおどする心」), 「編輯者より」, 「トルストイ会々報」

加藤一夫 「トルストイの自然生活論批判」 中央公論自然生活号(増刊)

宮坂象二訳 「労働と死と病氣」 露西亜 7月

長岡義夫訳 「蛇」 露西亜 7月

「ヤスナヤの日雇人トルストイ」 文章世界 7月

「ズラーテの珈琲店」 世界文学 7月

「女の革命家」 処女文学 7月

「『ロシア文芸の主潮』を読む」 中央文学 7月

長崎次郎訳 「イワンの馬鹿」 7月

- 西村 貞訳 「労働と死と病気」 7月  
 百島 操 「吾は如何にして信仰に入りしか」 7月  
 「復活（世界名著お伽噺）」 7月  
 「カチュシャ絵物語」 主婦之友 7月～10月  
 山本 鼎 「ヤスナーヤ・ポリヤナの追憶」 新潮 8月  
 トルストイ研究 2巻8号 8月

「此の一事のみ善」, 野上豊一郎訳「笈のニコライ」, 米川正夫「ドストエーフスキイに就いて」, 鏈田芳花訳「子供等の為に（トルストイ小話）」, 新関良三「トルストイの神についての雑感」, 堀江朔「余の杜翁評論に関して広津君に答ふ」, 石坂養平「トルストイと日本の人道主義者」, 石田三治「トルストイの絵画論」, 野村一意「トルストイの絶対主義」, 内山賢爾訳「狂人の追憶」, 加藤朝鳥編「トルストイ辞彙(7)」, 川上清吉「田中王堂氏の杜翁観を評す」, アルマア・モオド 谷口武訳「トルストイの思想概観(1)—トルストイ入門者の為に—」, 「編輯者より」

トルストイ研究 2巻9号 9月

グセフ「音楽—善の法則」, 加藤一夫「宗教家としてのトルストイ」, 田中純「トルストイの魅力」, 赤木桁平「トルストイの先駆者」, 鏈田芳花「実在には勝てないか」, 「子供達の為に」, 代永征二郎訳「スラアトの珈琲店」, 加藤朝鳥編「トルストイ辞彙(8)」, 山口左武郎訳「無抵抗主義に関するトルストイの書簡——イー・エチ・クロスビー氏に—」, 加藤朝鳥「異教的トルストイ」, シイマンズ 鈴木禎二訳「トルストイの芸術論に就いて」, 木下光生訳「三つの死」, アイルマア・モオド 谷口武謂訳「トルストイの思想概観（承前）—トルストイ入門者の為に—」, イリヤ・トルストイ「労働の動機（手紙）」, 「諸者論壇」（長尾和彦「怒るといふ事に就いて」, 渡辺昌知「トルストイと私の死の観念」, 石川雄太郎「思ひ出づるまゝ」）, 「編輯者より」, 「トルストイ会々報」

- 加藤一夫訳 「トルストイ—日—想」 9月  
 百島 操訳 「悪魔とパンと酒」 9月  
 長崎次郎訳 「火花一つも家を焼く」 9月  
 トルストイ研究 2巻10号 10月

加藤一夫訳「童話一つ・狐の尾」, 昇曙夢「杜翁出現以前の露西亜文壇の概勢」, 「トルストイの作品の印象(1)」(豊島與志雄「大きい, 力強い, 頑丈な手」, 田中純「『アンナ・カレニナ』所感」, 広津和郎「『戦争と平和』を読返して」, 小山内薫「『生ける屍』の印象」), 川島見一「トルストイ破門始末」, 石田三治「トルストイの美学」, 水守亀之助「ニキタの懺悔」, 喜多村進「杜翁の三つの特色とロシアの歩み」, 三ヶ島純訳「壺のアリョーシャ」, 鼎「ヤスナーヤ・ポリヤナの追憶」, 浅田清「トルストイの輪郭(1)—トルストイ入門者の為に—」, 伊藤松雄訳「喜劇 最初の醸造者」, 「編輯者より」

吹田順助訳 「ドストエフスキーの『アンナ・カレニナ』論」 帝文学 10月

昇 曙夢訳 「人は何によって生きるか」 10月

「生ける屍」 国民新聞 10月31日

涌島義博訳 「神と人(トルストイ1・2)」 白樺8巻10・11号 10月・11月

昇 曙夢訳 「熊狩の話(上・下)」 新国民 10月・11月

トルストイ研究 2巻11号 11月

〔●この号は、「皇帝ニコラス」が安寧秩序を紊乱するという理由で発売禁止の処分を受けた。(翌月号の「編輯者より」による)〕

イリヤ・トルストイ「草を刈るトルストイ」、昇曙夢「トルストイ出現当時の露西亜文壇」、島村抱月「『生ける屍』上演に就て」、加藤一夫訳「鶉とそのつれあひ」、「トルストイの作品の印象(2)」(吉田絃二郎「種子は地に播かれた」、加藤朝鳥「『ハヂ・ムラート』を読む」、野上豊一郎「トルストイは笑はない人であった」)、「恋愛に就て」、チェスタアトン「狂熱のトルストイ」、加藤朝鳥編「トルストイ辞彙(9)」, 宮島新三郎訳「皇帝ニコラス—未だ発表せられざりし「ハヂ・ムラート」中の一章—」, 石田三治「文学批評家としてのトルストイ」、稲毛詛風「ギョーのトルストイ観」、野村一意「基督・トルストイ・ルソー」、藤沢清二「トルストイに就ての断想」、大泉黒石「杜翁の周囲(1)」, 浅田清訳「トルストイの輪郭(2)—トルストイ入門者のために—」, 山口左武郎訳「如何に福音書を読むべきか」, 「編輯者より」

石田三治 「大学を退くまでのトルストイ」 大学評論 11月

村上静人訳 『トルストイ傑作集』(泰西傑作叢書5) (「アンナ・カレニナ」「復活」「コサック」「闇に輝く光」) 佐藤出版部 11月

島村抱月 「『生ける屍』に就て」 読売新聞 11月

百島 操訳 「名曲クロツエア・ソナタ」 11月

「さすらひの歌(『生ける屍』の小唄三篇)」 11月

畔上賢造 「理想家トルストイ」(『歩みし跡』所収) 11月

トルストイ研究 2巻12号(杜翁作品号) 12月

「トルストイの作品(特集)」(昇曙夢訳「エルマーク(短篇)」, 三ヶ島純訳「吾が夢(短篇)」, 浅野良吉訳「主人と下男(稿本)」, 長井みほみ訳「凡ての過ちの因(戯曲)」, 山内封介訳「コルネイ・ワシーリエフ(短篇)」, 「生に対する二個の見解」, 加藤一夫訳「子供達の為に(童話)」), 「イリヤ・トルストイの作品」(鏡田芳花訳「小さな青い杖(小品)」, 小坂春雄訳「赤いバシュリスク(小品)」), 「イリヤ・トルストイのこと(記事)」, 大泉黒石「杜翁の周囲(2)」, 花園緑人「トルストイの少年時代の日記」, 「編輯者より」

石田三治 「回転期のトルストイ」 開拓者 12月

石田三治	「教育家時代の杜翁」 六合雑誌 12月
石田三治	『全トルストイ』 大鑑閣 12月
昇 曙夢	『トルストイ十二講』 新潮社 12月
	「杜翁画伝」 文章倶楽部 12月
河竹繁俊	「上場された生ける屍」 文章世界 12月
	「主人と僕」 中央文学英文欄 12月
小山内薫	「泰西劇上場に就て島村抱月氏に訊す」 中央公論 12月
	「生ける屍」 新演芸 12月
夏木 茂	「キエフからヤスナヤ・ポリヤナまで」 三田文学 12月
昇 曙夢訳	「野猪狩」 新国民 12月
長崎次郎訳	「イエスの教へ」 12月